

こんにちは！戸田です。よろしく。

今日のテーマは、「ろう児の日本手話における文法の習得間違い」についてお話します。

私は、ろう学校で幼稚部、3，4，5歳児の先生をしています。ろう児たちのコミュニケーションは当然日本手話です。会話する様子も多く見られます。日本手話の文法には、NMM（※1）というものがありますよね。NMMには口型も含まれます。この口型とは、日本語の口の動きとは別のものです。日本手話には文法としての口型があります。例えば、仕事という手の動きに、どのような口型を付けるかで意味が変わります。真一文字に口を閉じて表す仕事と「う」の口型で表す仕事、「え」の口型で表す仕事では意味が異なりそのニュアンスを伝えることができます。手の動きは同じでも口型で意味に違いを持たせます。これが日本手話のNMMの文法の1つです。

ろう児の日本手話での会話の時に、非常に珍しいものを見つけました。状況としては、女の子同士の会話です。1人の子が一生懸命に自分の夢についてお店ですかね工作をしています。その時、もう1人の女の子がテープいる？と話しかけたいという状況です。工作の様子を見て、テープの準備がないので質問してテープを持ってきてあげようと思っているわけです。テープがいるかどうかを聞くときには、テープという手の動きに「う」の口型を付けた上で確認をします。しかしこの子は、そうではありません。テープという手の動きに「あ」の口型がついているのです。それを見た時に、私は自分で使用しないし見たことがないので違和感がありました。でも、工作をしている女の子は、自然とテープが欲しいと回答するのです。会話が成立しているんですね。大人ではこの口型は付きません。それでも会話が成立することに不思議さを覚えました。その後、日本手話の知識が豊富な友人に確認しました。「あ」の口型をテープが必要かどうか確認するときに付くのは一般的なのか聞きました。一般的には使用しないとのこと。おそらく、その子たちは日本手話の言語が洗練（成長）されている途中だから、文法間違いもあるのではないかと。聴者の子どもも聞いた言葉を使用するときには言い間違い・覚え間違いがありますよね。ろう児も同じです。はじめからすべて正しく身に着くわけではありません。

他にも手の形の間違いもあります。お母さんの手話は小指を立てますよね。小さい子は小指だけを立てることができないので、グーの状態で見られることがあります。成長の中で正しいものに変化していきます。なので、「あ」の口型がついてる女の子も成長する中で大人の表現などをみて自然と正しく変化してくると思います。

手の形の間違いなどはよく見るのですが、口型の間違いを見つけた時は新しい発見でした。口型が間違っても女の子同士ではしっかりと通じているところも興味深かったです。

飛躍しすぎかもしれませんが、「あ」の口型で通じているので修正されずに成長していったら、その口型をみて後輩も「あ」になり、ゆくゆくは新しいNMMの文法が誕生するかも、なんていうのは冗談です。

※1 「NMM」…Non Manual Marker（非手指標識）の略。

手指以外の動き（口型、眉の動きや視線、顎の動き、体の傾きなど）で、日本手話における文法的役割を持つ。